

佳作

ぼくの弟

鹿児島県 鹿児島市立広木小学校六年 田邊 虎志郎

ぼくには、二才年下の弟がいます。だけど広木小学校には通っていません。なぜかというと、ちがう小学校に通っているからです。弟は武岡台特別支援小学校に通っています。特別支援ん学校とは、体の不自由な子や、生活で困りごとがある子たちがそれぞれに合わせた勉強をしたり、しょう来大人になったときに必ようなことを学ぶ学校です。

ぼくの弟には、知的障がいと自閉しようスペクトラムしようがいがあります。見た目では分かりませんが、おしゃべりをするこや字の読み書きがむづかしかったり、お店の中で大声を出して走り回ったり、色んなことを判断するのがむづかしいです。

弟に障がいがあることを知らない人達は、白い目で見てくることがあります。その時ぼくはいつも、何も知らないのに何で見てくるんだらうとかなしくなります。だけど人の物をさわったり、勝手な行動

をして人に迷わくをかけてしまうことがあるので、そうならないように出かけたときは家ぞくみんなで、弟のこを見はっています。してはいけないことをした時は、「くだからしてはいけないよ」と教えながら注意します。ていねいにくり返し教えてあげると、弟はちゃんと分かってくれます。

他の子と同じようにできるこが少ないですが、少しずつできるこが増えてお兄ちゃんになってきています。弟は、ぼくよりき帳面な所があり、自分から洗たく物をたたんだり、特に皿洗いが上手にできます。母さんから、

「りゅうちゃんを見習いなさい。」

と言われます。ぼくにはできない事を、弟は簡単にやるのですごいなと思います。ぼくは、弟から色々な事を学んでいます。

言うこを聞いてくれなくて大変な時もあります。が、弟が生まれた時からずっといっしょにいるので、障がいを感したこはありません。弟は人なつっこくて、とてもかわいいのでたくさんの人から愛されています。ぼくの自まんの弟です。